

シラガシダ南加賀に産す

著者	代? 良丸
著者別表示	Shirosaki Y.
雑誌名	北陸の植物 = The Journal of Geobotany = The Hokuriku journal of botany
巻	7
号	2
ページ	61-61
発行年	1958-04-15
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065660



体山系では主として岩石上に多く、七会村、金砂郷村、及び県南の筑波山等では樹上に於て見られるがあまり多い物ではない。スズムシソウは水府村天下野で故鶴町猷氏が採集したと記録されている。八溝山、高笹山、花園山、和尚山のスギ林内にはよくアオフタバランが産する。オウヤマサギソウは八溝、花園、男体の各山中で採集されている。また八溝、男体の山地でツチアケビが見られる。この外、サイハイラン、クモキリソウ、ミヤマウズラ、シユンラン、ササバギンラン等が普通に見られるが県南に比して割合にキンランが少くない。

県南に見られるラン科 この地方は水田の多い平野でまだ充分なる採集をしていないがマツ林等にネジバナ、キンラン、ギンランが多く、たまたま人家の竹林内にクマガエソウの群生しているのを見る。石川武夫氏は稲敷郡でミズチドリを採集したと報告している。筑波山には、エビネ、ユウシユンラン、コアツモリソウ、アツモリソウ、ヒトツボクロ、セキコク、アオスズラン、ムカゴソウ等が産し、アツモリソウは最近数が少なくなっている。コアツモリソウは加波山、西金砂山にも産するが、筑波、加波のは、西金砂の物に比して小さい。ユウシユンランも筑波、仏頂、西金砂で採集したが他に産地を見ない。松村任三博士は植物採集便覧でホソバノムカゴソウ、オウバムカゴソウが筑波に産する事を記しているが学名の記入がない為明瞭でない。

牧野富太郎博士はササバランについて、「邦内西南の地に産す。予の知る所にては常陸を以て此の種の北限とす」と「理学界」V, 5, No. 8 に書いておられる事から本県にササバランが産する事が知られる。齊藤氏は本種の産地を筑波、加波としているが筆者は未だ採集していない。今後再調査したいと思う。

県西に見られるラン科 栃木県境の山地にはよくクマガエソウの群落を見かける。御前山村沢山ではキンセイランが産し、御前山にはマメラン、ムギラン、セキコク、ヒナランがあり、七会村にはセキコク、アツモリソウがある。アツモリソウの県内の産地は、筑波山と七会村であるが、前者は明るいアカマツ林内に生育しているのに後者ではスギ林の陰地に生じていた。笠間町佐白山で長本欣三氏はクロムヨウランを採集している。佐白山にはこの外ベニカヤラン、ヨウラクラン、カヤラン等の樹上着生ランが多く見られた。栃木県境にある仏頂山ではムヨウランを関本平八氏が採集している。

以上説明の都合上海岸、県北、県南、県西について述べてみた。然して今まで明らかにされた物についての目録は下記の如くである。 (次号に続く)

○ シラガシダ南加賀に産す (代崎良丸) Y. Shirozaki: *Ctenitis Maximowicziana* Ching was found in Southern Part of Kaga, Honshu, Japan

1957年9月1日、石川県江沼郡山中町荒谷(旧東谷奥村)の杉林中に於て、シラガシダ(別名キヨスミヒメワラビ)の小群落が見つかった。大きいのは60cm程度のものである。福井県では大野郡に産する報告があるが、富山県では聞いていない。恐らく日本海側の北限ではないかと思う。